

みなさまの寄附金を活用して 大阪を元気にする7事業を支援しました！

～令和4年度 大阪市市民活動推進助成事業～

区政推進基金(市民活動支援型)への寄附金を活用して、令和4年度は7つの事業に対して助成を行いました。

事業を実施している団体より、事業報告が寄せられましたのでご紹介いたします。

< 令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)の寄附について >

寄附金額 : 7,374,343円

寄附者の皆さま

【クリック募金協賛企業】(令和5年6月23日現在・登録順)

大阪シティ信用金庫、大阪信用金庫、センコー株式会社、
大阪市民共済生活協同組合、株式会社フォーシックス、クジラ株式会社、
株式会社クーバル、株式会社一二三工業所、株式会社宮田運輸、
株式会社フォーユーカンパニー、株式会社LIG、株式会社五大、株式会社ココロ、
株式会社ハヤシコーポレーション、愛眼株式会社、ガイドードリンコ株式会社

「クリック募金」とは、事業の趣旨にご賛同いただいた協賛企業等のバナーをクリックすることで、協賛企業等からクリック数に応じた金額を大阪市にご寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するシステムです。

【大阪WAONによるご寄附いただいた企業】

イオンリテール株式会社、株式会社光洋

「大阪WAON」とは、イオングループの企業が発行する、地域貢献型のご当地WAON(電子マネー)カードの大阪市版です。

このカードを利用いただくことで、その利用金額の一部を大阪市に寄附いただき、大阪市市民活動推進助成事業へ活用するしくみです。

【その他令和4年度にご寄附いただいた団体・企業等】(五十音順)

株式会社SIM、大阪府民共済生活協同組合、宗教法人真如苑 本町、
株式会社Dreams、富士フイルムシステムサービス株式会社、
リタワークス株式会社、株式会社良心塾

事業名：放課後スペース viva!しゅくだいカフェ

団体名：放課後スペース viva!運営委員会

<https://syukudai-cafe.net>

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】



放課後のこどもの居場所不足や、地域とのつながりの欠如などの課題解消のために、月～金曜日の 15～19 時に子ども達に対し完全無料で居場所を提供する。

子育て世帯の「家族だんらん（夜の 2 時間）」を確保

放課後、子どもたちが安全に安心して学べる、遊べる居場所づくり

課題やハンデを持つ子供を、自然なコミュニケーションの中でサポートする

以上 3 つの目的を達成するために活動している。

【事業の紹介】

- ・大阪市東淀川区で、区内の小学生、中学生を対象とした居場所を無料で開放し、大人の見守りがある中で、必ず宿題を終わらせる。
- ・活動日は、平日の 15-19 時で、常に居場所を開放している。
- ・523 名の子どもたちが登録・利用
- ・1 日の平均利用は夏季 15.4 名、冬季 11.2 名程度
- ・月額サポーターによる寄付金額、平均で 80,000 円。その金額で運営している。
- ・このような子どものための第 3 の居場所があることを認知してもらうための発信を強化する。
- ・居場所としての質（遊び場としての楽しさ・居心地の良さなど）を高めるために、子どもたち自身の意見を聞きながら、「場の改善のための試行錯誤」を行う。
- ・運営委員 5 名、スタッフ 9 名、ボランティア 63 名、月額サポーター 43 名で運営している。
- ・社会人や大学生、高校生などの様々な立場のボランティアスタッフの方が、子どもたちと関わることで、子どもたちの視野が広がったり、家庭や学校などでおきた問題を相談できる相手の選択肢を増やしている。

【事業実施の成果】

事業実施日は、お盆休業（8/15～8/19）、年末（12/26～1/3）以外の平日は毎日活動いたしました。

ボランティア従事者数は、時間帯に責任を持ってワンオペ運営をすることができるスタッフ 9 名、ボランティア先生が 59 名です。今では、523 名の子どもたちが利用し、平均で 12 名ほどの利用がありました。

申請時に記載しました、放課後に安全な場所があることで、保護者がフルタイムで安心して仕事ができることや、子どもを取り巻く環境を熱くするという目的に関しましては、普段の保護者の方々とのコミュニケーション、子どもたちの反応などで考えましても、達成できたと考えられます。

この活動のニーズは、子育て世帯の、子どもを預かってほしい、また、シングルマザーの世帯には、「子どもの宿題をみておいて欲しい」と言うものでした。これは、隣接している塾に通っている小学生の保護者の方から、お迎えの際に直接お聞きしました。

また、北部子どもセンターの方からお電話があり、観察している状態にある小学生が、しゅくだいカフェに通っているということで、協力の要請の電話がありました。そこで、しゅくだいカフェを利用した頻度、様子などを共有いたしました。また、開催したイベント（お餅つき大会）にも声かけし、ボランティアスタッフと仲良くお餅を食べている様子など見られました。結果として、今は家庭環境、通学状況も改善され、問題なしという判断となったそうです。

【今後の展望と課題】

- ・安定したボランティアスタッフの確保（現状繰り返し引き継ぎができる状態づくり）
- ・月額サポーターや助成金などの安定した財源の確保
- ・引き継ぎ後の体制の強化

事業名：こどもプラザ

団体名：特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会

<https://www.interpeople.or.jp/>

助成額：1,000,000 円



保護者も一緒に七夕の短冊づくり



こどもプラザの授業風景

【事業の目的】

この事業は、外国にルーツを持つこどもたち、とくに Newcomer のこどもに対する日本語で学ぶ学習の支援と、地域コミュニティや学校に馴染めないこどもに対する居場所を確保することで、無理なく日本の学校の授業に馴染んでゆく過程を、こどもに寄り添いながら支援するものです。その狙いは、世界各国にルーツを持つこどもたちを、多様化するグローバル社会の担い手として育成する事にあります。また、保護者が抱えている問題等を気軽に相談できるプラットフォーム的な役割も担っています。

【事業の紹介】

- 1) 運営日時：毎週水曜日 17:00～19:00
- 2) 運営場所：大阪市東住吉区杭全 1-15-18 大西ビル 3 階「会議室」
- 3) 募集人数：10 名程度を予定（現在 8 名在籍）
- 4) 対象者：大阪市在住の外国にルーツを持つこどもたち（Newcomer）
主に小学生が対象でしたが、中学生も 2 名在籍しています。
こどもの保護者も同じ時間帯で日本語を勉強中です。
- 5) 参加費：無料
保護者の日本語講習についても同様に無料となっています。
- 6) 運営内容
 - a) 正しい日本語の習得の支援
(元教員等のボランティアによる日本語で学ぶ学習の支援及び指導)
 - b) 宿題の指導（学校の宿題をサポートする。）
 - c) こどもとの心のふれあいタイム
(日本の習慣及び文化を教える目的で実施しています。
毎回最初の 15 分間を「先生と話そうタイム」にしています。
この会話を実施することで、学校で疎外感を味わっている、いじめ等に合っている等の問題がないかも同時にチェックしています。

【令和 4 年度の事業実施の成果】

1) 事業実施期間 令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日まで

2) 実施回数

- ・ こどもの日本語習得実施回数 48 回
- ・ 保護者の日本語習得実施回数 48 回

3) 参加者数

- ・ こどもの延べ参加人数 231 人
- ・ 保護者の延べ参加人数 136 人
- ・ ボランティア延べ参加人数 309 人

< 参加者（こども・母親）の声 >

- ・ みんなに会えるのが楽しみ。（こども）
- ・ 宿題を教えてもらえるのが良いと思う。（こども）
- ・ 先生と一緒にカルタをやるのが楽しみ。（こども）
- ・ 市からの補助金等の説明、申請方法などを教えてもらうことができました。（母親）
- ・ 最近の大阪の情報、学校の情報について教えてもらうことができました。（母親）
- ・ 日本語が少しずつ分かるようになってきました。嬉しいです。（母親）

< 市民や寄付者へのお願いなど >

- ・ コロナの影響が和らいできましたので、多くの外国人の方も日本を訪れるようになりました。また、日本で働くために来日される方も多くなりつつあります。このため、コロナ前のように日本語が話せず学校の授業についていけないこどもも多くなってきます。そのようなこどもを引き続きサポートして参ります。ご支援を引き続きお願い致します。
- ・ 外国にルーツのあるこどもたちの日本でのいい思い出づくりは、地域のイベント等に参加し、地域の方々と触れ合うことが重要となってきます。ぜひ地元のイベントに誘っていただき、共に楽しんでいただきたいと思います。



ハロウィンなので仮装で記念写真



クリスマスツリーの前で記念写真

【今後の展望と課題】

- ・ こどもプラザのノウハウを活かし、大阪市内を中心に必要と思われる地域に、他の事業者と連携をすることで拠点を立ち上げる計画は、準備期間から具体的に事業を開始する時期に来ていると考えています。事業者の選定及び資金的な問題等がありますが、支援者を募りながら対応してゆきたいと考えています。
- ・ こどもプラザは今後中学生も受け入れることにしています。このため、中学生に対応できるスタッフの募集、経験豊かなシニアの参加を募ることで対応して参ります。
- ・ 新型コロナウイルス感染症も沈静化してきましたので、今後は地域の祭りにこどもたちも参加することで地域社会との交流を考えています。

事業名：支援を要する学生・生徒のインターンシップ事業

団体名：認定 NPO 法人

大阪障害者雇用支援ネットワーク

<https://www.workwith.or.jp/>

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

一般高校・専修学校・大学など支援学校以外の学校に在籍する何らかの支援を要する(障がい者手帳の所持不要)学生・生徒に対し、在学中に企業でインターンシップを行うことにより就業のイメージを作り自己の課題と強みを見出す機会を提供する。インターンシップを通じ働くことを身近にとらえ、卒後の社会参加に対するハードルを下げ、職業準備性を高める。企業体験の前後には研修会を開催し、各自の就業機会の可能性を探る。



【事業の紹介】(開催日、場所、参加者数など)

事業内容	開催日	場所	参加者数
就労準備セミナー ・履歴書・自己 書作成、面接の練習 ・スキルチェック、作業体験 ・体験型企業見学会 ・学生インターンシップ報告会 ・小学生向け職場見学会	通年 通年 7月8日 1月19日 3月10日	サライト・オフィス平野 サライト・オフィス平野、 大阪市職業リハビリテーションセンター (株)ニッセイ・ニュークリエーション エルおおさか (株)ニッセイ・ニュークリエーション はなてん工房、 四貫島小学校	2名(延べ4回) 9名 21名 17名 25名
学生インターンシップ登録会 職場実習(1～5日間)	7月19日 8月25日 8～3月	私学会館 エルおおさか 12社	学生12名 学生10名 学生22名
個別カウンセリングの実施	6～3月	当法人事務所、 サライト・オフィス平野、 大阪市職業リハビリテーションセンター	学生52名
教職員、保護者向けセミナー ・フィールドワーク 日本ハムキャリアコンサルティング、パナソニックエコシステムズ共栄(株)、ヤンマーシンバイオシス(株)大阪事業部、医療法人徳洲会 野崎徳洲会病院 ・基本を学ぶセミナー ・学校出前研修 ・概要説明会	11月25日 2月21日 3月2日 6月15日	エルおおさか エルおおさか 大阪国際大学 大阪市職業リハビリテーションセンター	14名 25名 12名 35名

【事業実施の成果】

< 体験型企業見学会 >

- ・企業見学だけでなく、入力業務などの簡易体験も希望者には実施。全体的に高評価で、別の仕事も体験してみたい、働くイメージをつかめた、企業についての理解が深まったとの反応でした。

< 小学生向け職場見学会 >

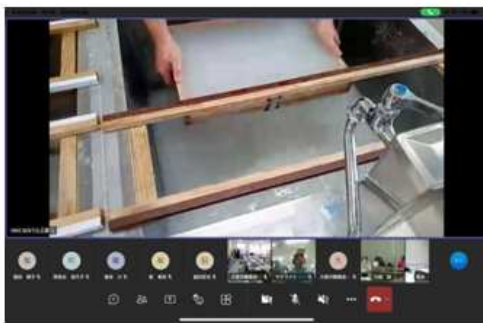
- ・四貫島小学校と㈱ニッセイ・コミュニケーションはなてん工房をつなぎ、on-line で働く障がい社員の様子を見学。企業側から障害のある人の雇用の現状や一般就労と福祉就労の違い、入社までの過程、能力の見極めや働くことに必要な力などの説明がありました。障がい社員自身から作業手順の説明とともに on-line 見学を行いました。「卒業後どういった経路で入社に至るのか」、「社員の方はもらった給料は何に使っているのか」など、保護者や教員に、教育分野以外の支援（就労支援含む）情報が不足していることを実感しました。

< 学生インターンシップ報告会 >

- ・学生インターンシップ参加者で企業就労されている元学生から、自己の体験について講師との Q & A 形式でプレゼン。後半は 4 大学のキャリアセンターの方に登壇頂き、各大学の取り組みと課題についてお話を聞きました。大学毎の特色があり、アンケートでは、企業・大学・支援機関で情報交換できて、相互理解が深まったとの回答でした。

< 学生インターンシップ登録会・職場実習 >

- ・職場実習は、2 名の内定者が出ましたが、実習日数を達成できず、途中で中断するケースも目立ちました。就業意識の醸成など職業準備性の問題、狭い社会経験、障がい特性からくる新しいものへの挑戦のしづらさ、対人コミュニケーションの課題などが考えられるため、今後は実習前の更なるメニューの充実を図ります。



小学生向け職場見学会



学生インターンシップ報告会

【今後の展望と課題】

- 1) 教育機関への周知：インターンシップの概要説明会として事業全体を学校に周知したものの高校の参加者が少ない。周知手段として、郵送だけでなく、ホームページの告知、FAX やメール等の活用を予定しています。
- 2) インターンシップ中断や辞退者への対応：開始したものの途中中断のケースが多くありました。この背景には、学生・生徒の職業準備性（詳細は上記）が挙げられます。次年度は体験型職場見学会の充実など、ハードルを下げた前段階のしくみを作ります。
- 3) 教育機関による課題や対応窓口状況の違い：学校により学生・生徒の対応の違いがみられ、担当教諭が実習等への同行が難しい場合もありました。また、学校へ相談できない生徒も多く存在しています。従来は、学校を通じての申し込み制としていましたが、個人や不登校支援機関の申し込みを可能とする等、窓口を広げるとともに、個別カウンセリングの常設窓口を設置します。

事業名：疾患の早期発見に貢献する

“画像診断オンライン講座ちゃんねる”の制作・運営

団体名：特定非営利活動法人メディカル指南車

https://www.medicalshinansha.or.jp/diagnosis-i/diagnosis-i_channel.php

助成額：438,000 円

【事業の目的】

・事業の背景

現代医療ではX線、超音波、内視鏡などは各診療科で最初に行われる画像診断であり、正しい診断や治療のためには不可欠な手段です。正確な診断には高度な専門知識と熟練が必要ですが、実際の臨床現場では医療機関によって画像診断の精度には「ばらつき」が大きいのが現状です。

・メディカル指南車にはその解決策があります

大阪大学、大阪市立大学、関西医科大学など、大阪を代表する大学病院の「専門医」と知識情報処理の研究者がメディカル指南車に集合し、不足する「専門医」に代わって情報処理を活用して患者やその家族、医療従事者に効率的に医療や健康に関する情報を提供してきました。

そこで、これまでのノウハウを活用して「専門医」が画像診断のポイントや症例を解説する“画像診断オンライン講座ちゃんねる”を開発してYouTubeで公開すると共に“知言大放送局”での情報発信を通じて、画像診断に携わる医療従事者や画像診断に関心のある市民のためのプラットフォームを構築して、大阪市民の健康長寿に貢献するために活動しています。

【事業の紹介】

画像診断オンライン講座ちゃんねる：<https://www.youtube.com/@user-si3cn5xj7i>

22本のビデオを公開して8万回を超える再生回数と800人を超えるチャンネル登録者数を獲得



知言大放送局：<https://www.youtube.com/@user-lr7uy5yu1k>

大阪市民の医療に対する理解や医療従事者との信頼関係を醸成すべく

「今の医療制度を知り、学び、自分の健康や疾患予防への意識を高めよう！」

「医師に信頼されるセカンドオピニオンとは？」の2本のビデオを公開中



【事業実施の成果】

画像診断オンライン講座：

期間中に 22 本のビデオを公開して、YouTube や Google などで広報宣伝を行ったところ、8 万回を超える再生回数と、800 人を超えるチャンネル登録数を獲得しました。右図に都市別の再生回数/再生時間、視聴者の年齢を示します。

都市別では大阪市がダントツであり、大阪市市民活動助成事業に選定されている効果が認められます。一方、年齢別では、18 歳から 65 歳以上のあらゆる成人に視聴されていることから、広い年齢の大阪市民に支持され、視聴されていることがわかります。

知言大放送局：

画像診断に限らず円滑な医療を受けるためには、医療従事者と患者との信頼関係を醸成

することが重要です。そのために大阪市のプロポーザル事業の一つ手ある“知言大放送局”に大阪市民が医療や医療従事者への理解を促進するためのビデオを公開し、インターネット TV や大阪市市民活動総合ポータルサイトで広報宣伝を行ってきました。

都市	視聴回数 ↓	総再生時間（時間）
☐ 合計	86,821	4,399.0
☐ 大阪市、日本	2,172 2.5%	114.0 2.6%
☐ 横浜市、日本	655 0.8%	37.4 0.9%
☐ 名古屋市、日本	608 0.7%	34.7 0.8%
☐ 福岡市、日本	531 0.6%	31.1 0.7%
☐ 札幌市、日本	507 0.6%	30.7 0.7%

視聴者の年齢 ↓	視聴回数
☐ 13～17 歳	0.1%
☐ 18～24 歳	17.0%
☐ 25～34 歳	19.5%
☐ 35～44 歳	14.8%
☐ 45～54 歳	19.9%
☐ 55～64 歳	14.1%
☐ 65 歳以上	14.7%

【今後の展望と課題】

“画像診断オンライン講座”については継続的な集客とチャンネル登録者数を獲得するために、月 1 本程度のビデオを継続的に公開して広報宣伝を継続する必要があります。

一方、大阪市民に対して医療に対する理解や医療従事者との信頼関係を醸成することが重要です。知言大放送局で「医師に信頼されるセカンドオピニオンとは？」というビデオを制作しましたが、出演してくださった方々の体験談をお聞きして非常に驚きました。すなわち、担当医が処方した薬の治療効果を担当医に報告せずに他の病院を受診したり、専門外の治療を期待したりする方が多数おられるのではないかとこの危惧を持ちました。いずれも医師に対する理解と信頼感の欠如が原因ですが、医師は薬の処方に一定の方針をもって処方しているために、いきなり副作用のリスクがある強い薬を処方することは控えるということを理解していなかったり、ご自身の症状と医師の専門分野とのアンマッチを理解できなかった事例を取り上げる結果となりました。

今後はより多くの事例を取り上げ、セカンドオピニオンの必要性和、医師との信頼感を醸成するための接し方について、医療従事者も交えて解説を行っていく必要があると感じています。

事業名：小中学校のキャリア教育における、
外部プロフェッショナル人材との協働モデル構築事業

団体名：NPO 法人 JAE

助成額：836,000 円

<https://jae.or.jp/topics/2022/72801/>

【事業の目的】

「キャリア教育」を通じて、自分の長所に気づけず自信を持てなかったり、将来に希望を持ってない子どもたちが「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力」を育むため学校現場と、個々人に寄り添った対話によって強みや個性を引き出すプロフェッショナルであるキャリアコンサルタントとの協働モデルの構築と仕組み化を行いました。



【事業の紹介】

1．実施校・実施日、対象、従事者数）

(1)大阪金剛インターナショナル中学校：2022 年 10 月 7 日、24 日

【対象（参加者）】中学 1～3 年生 64 名

【従事者】運営スタッフ：2 名、キャリアコンサルタント：17 名

(2)大阪市立金塚小学校：2023 年 1 月 19 日

【対象（参加者）】小学 6 年生 39 名

【従事者】運営スタッフ：2 名、キャリアコンサルタント：12 名

(3)大阪市立鶴見橋中学校：2022 年 9 月 9 日

【対象（参加者）】中学 2 年生 41 名

【従事者】運営スタッフ：2 名、
キャリアコンサルタント：12 名



【事業実施の成果】

（１）参加した児童生徒の声

下記のように「自分では気づかない長所」を見つけることができた、「モヤモヤを解消」することができたとの声、もう一度話がしたいとの声が多く寄せられました。

- ・「私の短所は少しずつ長所にしていけるんだなと思いました。自分では知らないいい所や長所を知ることができて良かったです。」
- ・「最後まで丁寧に話をきいてくれて、ありがとうございました。心の内側にあったモヤモヤと不安が少し解消されて、嬉しかったです。またの機会があればまた話してみたいです。」
- ・「初対面だったのに（キャリアコンサルタントが）気さくに話しかけてくれてとても話しやすかったです。自分のいいところにも気づくことができました。」

（２）実施校の教員のアンケート結果・声

アンケート結果

本プログラムの目標である下記「AB」の達成度を実施校教員に尋ねた結果、下記の結果でした。

A 自他の「よさ」や「自分らしさ」を見つける“まなざし”を身に付ける。

→回答の得られた２教員とも「とても効果があった」と回答

B 強みと弱みは表裏一体の個性であるという気づきを促し、自分自身の「よさ」や「自分らしさ」に気付く。→回答の得られた２教員とも「とても効果があった」と回答

教員の声

- ・「口数の少ない男子生徒がキャリアコンさんとの対話を終えて、自分の良いところが見つかりました！と嬉しそうに語っている姿がとても印象的でした。」
- ・「児童は普段なかなか味わうことのできない長所やほめられるということをたくさんしてもらったことで、自己肯定感の向上につながったと思う。」

（３）プログラムの質担保のための仕組み化・モデル化

プログラムの質担保のため、キャリアコンサルタントのトレーニングプログラムを開発・実践しました。また、学校ニーズに合わせワークシート等を数種開発し、プログラムのパッケージ化を行いました。さらに円滑な運営に向け、運営マニュアルの整備等を行いました。

【今後の展望と課題】

1.プログラム内容の改善

スライド資料やワークシートが児童生徒にとって理解しにくかったり進めにくい内容があったため、改善を行いました。また、語彙を補うアイテムを導入するなどの工夫を行いました。

→今後は実施校での関連する教育活動（職場体験、キャリアパスポートに関連した授業など）との連動を図ることで学習効果のさらなる向上を図っていきたいと考えています。

2.教職員との協働体制の発展

教職員との協働体制が不明確な点、共有が難しい点があったため資料や説明内容を改善しました。

→今後は、教職員が主体となった授業進行ができるよう資料を整備していきたいと考えています。

また、教職員が主導的に運営・授業実践ができるよう教職員研修の実施についても検討中です。

3.キャリアコンサルタントとの交流拡充

児童生徒からキャリアコンサルタントとの対話時間を増やしてほしいとの声が多数ありました。

→放課後の時間の活用を含め、対話拡充の方策について検討を進めたいと考えています。

4.事業の持続発展に向けた財政面の方策検討

助成事業終了後も活動財源を確保して持続発展につなげるため、学校や教育委員会での予算化や個人・法人からの寄付金を募るなど様々な方策を検討したいと考えています。

事業名：ネグレクト児童およびヤングケアラーへの寄り添いサポート事業

団体名：Minami こども教室

助成額：1,000,000 円

事業HP等のURL：<https://minami-kodomo.org>

【事業の目的】

Minami こども教室は大阪府中央区にて、2013 年より毎週 1 回夜間の教室を開催し、外国につながる子どもたちの学習支援と居場所づくりに取り組んできました。そこで出会った子どもたちの中に、ネグレクト児童やヤングケアラーに該当するケースを発見し、活動当初から子ども自身だけでなくその背景にある家庭への継続的な見守りと支援を行ってきました。本事業の助成を受けることによって子どもへの相談対応を拡充させ、経済的困窮や不安定な生活状況が児童虐待を招くことを未然に防ぐべく事業体制を強化しました。

本事業の目的は、ネグレクト児童・ヤングケアラー等の事案の当事者である子どもとその保護者が、躊躇わずに助けを求められる“場所”と“人”の環境を整え、支援団体や専門機関との連携によって問題の解決に取り組むことです。様々な境遇にある子どもたちが安心して伸び伸びと暮らせる社会の実現に向けて子どもサポートの裾野拡大に努めています。



スポーツチャンバラ体験



ダンスパフォーマンス



ダンスレッスンの様子

【事業の紹介】

【HP・SNS・紙媒体による相談事業の周知】

HP・Facebook、・Instagram・LINE による事業の周知、チラシ・ポスター・カードの配布

- 6 月にチラシ・カード 4,000 部、ポスター 300 部配布。以降も随時諸団体への配布を継続中

【相談窓口の開設】

4 月より毎週火・水曜日 17 時～20 時に道仁連合会館（島之内 2-12-19）・中央区子ども・子育てプラザ（島之内 2-12-6）で対面による相談窓口開設。同時に電話と LINE ビジネスを利用した相談窓口開設

- 2022 年 4 月～2023 年 3 月 75 回開催。相談件数 335 件、子どもからの相談件数 56 件

【課外活動の充実・子どもの居場所の拡充（他機関との連携）】

- 夏休み特別活動として 7～8 月に居場所の提供とともに「こども縁日」「映画鑑賞会」「スポーツチャンバラ体験」等 10 回開設・参加者 69 名
- 2022 年 12 月 10 日（土）大阪労災看護専門学校学園祭への参加 参加者 17 名
- 2022 年 12 月 24 日（土）森ノ宮キューズモール「キラメキ クリスマスマーケット」ステージにおいてダンスパフォーマンスによるステージ出演。出演に向けて 10 月より学習活動後に講師を招いてダンスレッスンを行った

【専門機関への同行支援・学校訪問・家庭訪問】

自律支援、自立支援、行政手続き支援のための同行、学校での保護者面談・情報共有等。

- 2022年4月～2023年3月 65件

【研修イベントやタウンミーティングの開催】

- にじいろ i-Ru 性教育講習会 参加者 18名

【子どもの社会体験活動の実施】

- 2023年3月21日(日)「しま ルーム」「ダイバーシティサッカー協会」と合同でスポーツ体験とBBQを楽しむ遠足を実施した。
於：舞洲スポーツアイランド、舞洲オーチャードグラス 参加者 77名

【事業実施の成果】

本事業の実施により、相談支援対象者の枠を拡げ、ルーツや居住区の制限なく家庭の問題を抱える子どもと保護者に対応する相談体制を整えた。他機関との繋がりや保護者間の口コミにより、また、各種媒体に加え講演や取材の機会に本事業の紹介を積極的に行ったことにより、これまで Minami こども教室と接点がなかった子どもや保護者にもアプローチすることができた。また、協働する組織や団体も多くなったことで、複雑なケースや緊急の対応を要するケースにもより適切な支援を行えるようになった。

子どもの課外活動や社会体験については、子どもたちがストレスを解消し、さらには虐待から身を守る自尊感情を身に付けられるよう考慮して実施した。また、様々な活動を通して見守り支援する大人との信頼関係を築き、必要な時に助けや助言を求められるようになることを願って企画・実行した。外部の団体の協力を得て実行した行事については、子どもたちを支える輪を拡げる意味でも心強いものとなった。

【今後の展望と課題】

毎週2回の相談窓口については保護者間での口コミや関係機関からの紹介によって認知が高まりつつある。今後も子ども自身への呼びかけを強化し、大阪市全域のネグレクト児童やヤングケアラーという状況に置かれている子どもたちに届くようなメッセージを配信していきたい。

相談者のスキルアップについて、学習会・研修会等の機会を充実させていくとともに、多くの組織、団体や地域との関係作りのためのタウンミーティングを開催する。ヤングケアラーやネグレクトという見つけにくく、密かに深刻化しやすい問題について、早期発見の視点とアウトリーチについて、スキルを身に付けた大人はもっと必要だと感じている。

事業名：1人1人の成長の場所！ろーたすフリースクール事業！

団体名：特定非営利活動法人

不登校・病児自立支援事業ろーたす

<https://lotus20190401.work/>

助成額：1,000,000 円

【事業の目的】

- 1.不登校・苦登校の児童生徒は、本来学校教育により育まれるはずの力が身に付かないというデメリットを軽減する。
→活動の中で自己肯定感を養い、コミュニティの中で社会参画への力を身に付け、自立した個人へと成長していくための力を育む。
- 2.保護者の心身への負担に起因する家庭のQOL低下の緩和。
→親の会・日常的に行う個別対応を中心とした保護者への心身のケアより各世帯のQOLの向上を目指し、よりよい養育環境が家庭内で創られるようアプローチしていく。



【事業の紹介】

～事業概要～

不登校・苦登校の児童生徒に向けた、学習機会の確保・自己実現の場の提供・サードプレイスの提供を目的として、フリースクール運営を行う。社会参画・進路獲得・自立に向けた力を養うことを目標とする。

また、不登校・苦登校の子どもを持つ保護者を含む、子育てに悩む保護者の方々にも様々な角度からアプローチして参りたい。

～フリースクール開設日時～

- ・開設時間 月～金曜日 10時～17時（17時～18時は振り返り）

土曜日は月2回程度行事開催

～開催場所～

- ・教室内（教室ろーたす・教室おれんじ）

～利用人数/日～

- ・16人 2023年5月時点

【事業実施の成果】

『ろーたす』という社会の中に多様性を担保することができました。

- ・ 沢山の体験活動や行事で、多様な教育環境の提供できました。
- ・ 居場所事業をはじめ各事業との連携でバックボーンに関わらず、子ども達同士が関わることができました。
- ・ スモールステップ支援表や親の会、日々の関わりの中で保護者と人間関係を築けました。
- ・ 新たな取り組みを沢山行うことができ、新たなステークホルダーとの繋がりを獲得することができました。
- ・ 親の会がきっかけで、フリースクールの入会に 2 人つながりました。
- ・ スタッフが固定化でき、組織として動けるようになってきました。
- ・ ろーたすワンダーラスト開催のための準備(クラウドファンディングと子ども集め)を事業広報に繋げることができました。
- ・ 地域との繋がりが強固になっており、認知度が向上していると感じます。
- ・ 教員向けの学校研修を担当させていただきました。

外部との連携・協働

- ・ 他団体と協働で様々なイベントを開催できました。更にそのイベントにおいて、後援を教育委員会・社会福祉協議会から頂くことができました。

【運動会、『ろーたすワンダーラスト』、メンタルクリニック院長との講演会(3 月実施)など】

- ・ 学校や各機関と子どもについての協議・面談・ケース会議を行い、各ステークホルダー同士で足並みをそろえ、子ども達へのより良いサポートに活かすことができました。

運営体制の整備

- ・ 事務局長、会計担当のスタッフを配置することができました。
- ・ マンスリーサポーターが 1 0 0 名を突破、企業スポンサーが 1 1 社になりました。
- ・ 新しい教室を設置することができました。

【今後の展望と課題】

～ 展望 ～

- ・ 通信制高校とサポート校としての連携を図り、高校生への充実した支援に努めていきます。
- ・ 2023 年度終了時には常勤スタッフ 6 名、非常勤スタッフ 2 名で運営できるよう(現在は常勤スタッフ 5 名、非常勤スタッフ 5 名。)体制を整備致します。
- ・ マンスリーサポーター 2 0 0 名、企業スポンサー 1 5 社を目指し、運営資金の充実に努めて参ります。
- ・ 法人内に多様性を担保し、住吉区の中で『無くてはならない団体』として信頼頂けるよう、日々の事業運営に努めて参ります。